

【地域で動き始めた放射能対策活動報告④】

「子供たちを放射能から守ろう！」

- 地域の組合員が放射能対策に活躍しています
- 自治体も新たな放射能対策の取り組みへ

★龍ヶ崎のお母さんたちが集って「放射能から子供たちの命と健康を守る方策」を市長に要請



龍ヶ崎市でも常総生協組合員が中心になって「放射能から子どもを守ろう@龍ヶ崎」を立ち上げ、「子どもたちを守りたい」という思いのもと、活動が始まりました。

●市がやらないのであれば、自分達で始めるしかない！

市としても学校や公園の放射線量の計測は行っていますが、子どもの日常行動を反映した計測にはなっていないと、代表の都留さんを先頭に自分達で計測活動を行ってきました。

なかでも久保台小学校は、市での測定では分らなかった高線量地点が都留さん達の測定で浮かび上がりました。正門付近のコンクリート上の窪みに堆積した土の所では、空間線量が地表面で $2.3 \mu\text{Sv/h}$ 、採取した土壌はセシウム合計が12万ベクレル/kg。これらの結果を学校に提出し、対策を求めたところ、現場の教員の方の手作業による部分的な除染は行われましたが、市としての体系的な除染活動とはなりませんでした。

●お母さんたちが集って市長と面談、要望書を提出！

11月4日、大人15人と子供4人で龍ヶ崎市役所を訪問。この間の自主測定活動のデータを

添えて放射能対策についての要望書を市長に手渡しました。

30分間の市長との懇談の中では、「子どもの目線からの対策を」「龍ヶ崎市も決して低汚染地域ではないことを認識した上での対策、市民への啓蒙活動を」「学校や幼児施設はとにかく早急な対応を」とそれぞれの思いを市長に直接伝えました。市長からは「自分も小さな子を持つ親。子供に対する影響をできるだけ少なくしたい」という言葉がありました。

要望書への回答は後日文書で行われますが、行政と市民が協力しあつての放射能対策への一歩を踏み出しました。



【龍ヶ崎市長への要望内容】

1. 的確な放射線量測定と公表

- ・高精度の線量計への変更と再調査
- ・これまでの定点観測に加え、子どもの日常行動を反映した測定場所の設定
- ・市民参加での測定場所設定、測定作業
- ・測定結果のHPでの公開
- ・市民との共同作業による市内の詳細な汚染マップの作成と公表
- ・高線量地点への看板等の設置による注意喚起

2. 的確な除染対策の作成・実行・公表

- ・市除染基準値 $0.23 \mu\text{Sv/h}$ を上回っている地点の早急な除染計画の策定、実施
- ・機動力のある除染対策室の設置と住民主体の除染計画の具体化
- ・専門企業、地元業者による重機等を用いた園庭、校庭表土の除染実施
- ・市民と協力しての家庭、事業所の除染

3. 学校給食に含まれる人工放射能をできる限りゼロに近づけるための方策

- ・食材の厳選、調理方法の工夫等を担う専門スタッフの確保
- ・できる限り汚染されていない地域で収穫された食材の使用

- ・一食丸ごと計測(全体の精密かつ効率的な測定)
- ・ゲルマニウム半導体検出器等、1Bq/Kgまで測定出来る機器への刷新
- ・現行測定器(検出限界30Bq/Kg)の検出限界値低減対策の実施
- ・給食利用について、保護者の判断の尊重

4. ホールボディカウンター・尿検査の受検
5. 国・東電に対し、除染費用についての賠償請求及び除染への責任ある対応
6. 子どもたちに対して、放射能の危険から身を守るための放射線教育の充実
7. 高線量の焼却灰について、処分方針と市職員の被曝防止対策の提示
8. 以上の項目を実行していくための市民参加の放射線対策検討委員会の設置

■11月5日付 常陽新聞

放射線量再調査など要望

龍ヶ崎の母親グループ

母親グループ「放射能汚染から子どもを守ろう@竜ヶ崎」(都留孝子代表)は4日、中山一生市長に対し、①学校などの放射線量の再調査と除染の徹底②給食食材の全品目検査と精密測定できるゲルマニウム半導体検出器の導入③子どもが内部被ばく調査の実施など7項目を要望した。同会によると、9月にメンバーの子どもが通学する

同市久保台、久保台小学校で独自に空間放射線量を測定した結果、正門近くの花壇の前で最大毎時2.3マイクロシベルトが測定された。さらに土砂を採取し、常総生協に依頼して検査したところ、正門から昇降口に向かう途中の舗装された歩道上の土砂から最大で放射性セシウムが1.4当たり12万ベクレル検出されたという。この2カ所はいずれもその後除染が行われ、空間放射線量は毎時0.2マイクロシベルトに下がったという。この2カ所を合わせて、毎時1.4マイクロシベルトを超える地点が校内に計16カ所あり、そのうち6カ所はまだ除染が済んでいないという。一方市のこれまでの調査では、同校内に1マイクロシベルトを超える地点はなかったという。

要望に対し中山市長は「子どもに対する影響をできるだけ少なくしたい。除染の指標値を毎時0.33から0.23マイクロシベルトに改めたところで、今後、要望書を精査し、市の対策に取り入れたい」などと話した。同会によると、市が各校当たり20〜30カ所を測定して作成した汚染マップのうち、新しい指標の0.23マイクロシベルトを超える地点は、市内の小中学校に計178カ所あるという。(鈴木宏子)



市長と面談、要望書を提出してきました

龍ヶ崎地区理事 加藤理子

11月4日、市長面談の時に要望書を提出してきました。

当日は、大人15人と子ども4人、常総生協の組合員さんから「子どもはいないのだけど、一緒に行っても良いかしら？」とお電話いただきとても嬉しかったです。「枯れ木の一本よ〜」と冗談っぽく話してくださった速水さん。飯野さんも「力になるわよ」と声をかけてくださいました。「市民オンブズマン龍ヶ崎」の披田さんも協力してくださるとのことです。先輩方のお力添え、本当にありがたいです。心強いです。生協からは、丸山専務も来ていただきました。

30分と短い時間でしたが、こちらの思いをお話してきました。市長にも小さなお子さんがいらっしゃることで「子どもの環境を守ることを優先に対策本部会議を開き、早急に対処したい」と話していました。

要望書の回答は、2週間後に文書でお願いします、としています。

11月27日(日)には、「小川仙月さん」に来ていただき「チェルノブイリ事故後の被害の現状と、福島原発についてと事故後にどのように関東〜龍ヶ崎市に放射能が流れてきたかについて」お話しして頂きます。その時には、市からの回答が出ていますので報告会をします、ぜひ松葉コミュニティセンター2階和室までお越しください。

要望書は、「放射能汚染から子どもを守ろう@竜ヶ崎」のブログにも載せてありますのでご覧ください。また、ブログが見られない環境の方は、印刷したものもありますので、加藤まで連絡ください。

- 放射能汚染から子どもを守ろう@竜ヶ崎ブログ <http://kodomoryuugasaki.blog.fc2.com/>
- 加藤携帯 090-1701-8520